

粒の気象学 ―雨粒と微粒子―

担当: 重 尚一・高橋けんし(生存圏研究所)・大沢信二(地球熱学研究施設)

分野: 気象・気候・陸水・リモートセンシング **定員: 4名**

- 本課題では, 雨粒や微粒子(エアロゾル)といった気象学のなかの“粒”に関連した様々な観測データに触れる.
- 雨粒
レーザ(光)()で得られた雨滴の大きさを表す粒径分布データや得られた雨粒の大きさを表す粒径分布データやレーダ(電波)で得られた高時間・高分解能の雨の水平分布を, プログラムを作成して可視化・解析するとともに, 関連する英語文献の輪読を行う.
- 微粒子(エアロゾル)
エアロゾルの粒径分布データについても, 光散乱計測法により観測する. 天気予報やニュースで目にする「きょうのPM2.5は～」という情報には載らない, 多彩な情報が得られることを実感してもらおう. “どこ”で, “どのように”エアロゾルの粒径分布を測定するかは, 受講生と相談しながら決める.



図 理学部1号館屋上設置のレーザ式降水粒径速度分布測定装置